

あいち病害虫情報 最新情報

平成 21 年 11 月 13 日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除グループ

気温は高め、降水量は多い

名古屋地方気象台 11 月 13 日発表の 1 か月予報によれば、東海地方では、平年に比べ曇りや雨の日が多い見込みです。向こう 1 か月の気温は、平年より高い確率が 60%、降水量は多い確率 50%、日照時間は少ない確率 50% で、気温は 1 週目が平年並または低い確率とも 40%、2 週目が高い確率 60%、3～4 週目は高い確率が 50% となっています。

ムギの排水対策を徹底！

安全で品質の良い麦が求められており、赤かび病によるかび毒汚染の防止は必須です。排水不良は生育不良を招くだけでなく、赤かび病の発生を助長しますので、排水対策を十分行いましょう。

また、赤かび病だけでなく、種子伝染性病害である裸黒穂病、なまぐさ黒穂病等を防ぐために種子消毒をしっかりと行いましょう。

キャベツ、ハクサイの病害に注意！

キャベツ、ハクサイでは、一部のほ場でべと病が発生しています。今後、降雨が連続した場合は、多発するおそれがあります。本日発表のキャベツべと病情報第 1 号、ハクサイべと病情報第 1 号を参照に防除しましょう。

ハクサイでは、白斑病の発生が多いほ場を確認しています。発生を確認したら速やかに防除しましょう。

キャベツ菌核病の発生はまだ確認していませんが、発病株は直ちに抜き取ってほ場外に持ち出し、適切に処分しましょう。なお、本病の病原菌は多くの植物に寄生しますので、キャベツ、ハクサイで菌核病が発生している地域では、他作物でも菌核病の発生に注意しましょう。

果菜類の灰色かび病

気温が低下するこの時期から発生が多くなるので注意しましょう。また、暖房機の設定温度を低くしている場合は、積極的に換気や送風を行って、多湿にならないようにしましょう。また、発病果や発病葉は速やかに取り除いて処分しましょう。

トマト葉かび病、トマトすすかび病

トマト葉かび病、トマトすすかび病が一部のほ場で発生しています。発生量は、まだ多くはありませんが、施設内の湿度が高くなると発生が増えますので、灰色かび病同様多湿にならないようにしましょう。また、成り疲れにより発生が増えるので、肥培管理にも気をつけましょう。

イチゴうどんこ病、イチゴのハダニ類に注意！

うどんこ病は、引き続き発生が多いほ場が見られます。果実に被害が出ないように防除しましょう。ハダニ類の発生が多いほ場が見られます。ミツバチへの影響を考慮し、防除を徹底しましょう。天敵を利用する場合は、ハダニ類の密度が高くなってからの放飼では十分な効果が得られないので、殺ダニ剤散布後、天敵への影響がなくなったら放飼しましょう。

なお、薬剤防除によりハダニ類の発生が少なくなっているほ場もありますが、今後、気温が高めに推移した場合は、発生が多くなりますので、ほ場をよく観察し、早めに防除しましょう。

ナス、キュウリのミナミキイロアザミウマに注意！

ナス、キュウリでミナミキイロアザミウマの発生が多いほ場が見られます。ほ場での発生状況に注意し、早めに防除しましょう。

問い合わせ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除グループ
TEL 0561-62-0085 FAX 0561-63-7820